診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院呼吸器センター内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この研究では、亡くなられた方の診療情報も、貴重な情報として、研究対象として扱わせていただきます。この案内をお読みになり、ご自身やご家族等がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自身やご家族などの診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間： 2010年1月1日 ～ 2029年10月31日の間に、胸部悪性腫瘍 呼吸器センター内科に入院・通院し、治療、検査を受けられた方

【研究課題名】

胸部悪性腫瘍の診断、臨床経過およびバイオマーカーに関する臨床的検討

【研究の目的・背景】

目的

本研究は、2010年から当院に入院ならびに通院した肺癌症例を対象とし、後ろ向きに臨床的特徴を検討することを目的とする。

背景

胸部悪性腫瘍の中でも肺癌は、我が国において依然としてがん関連死亡の最上位を占めている。肺癌は腺癌、扁平上皮癌、さらには神経内分泌腫瘍である小細胞肺癌 (small cell lung carcinoma: SCLC)、大細胞神経内分泌癌 (large cell neuroendocrine carcinoma: LCNEC)、およびカルチノイド腫瘍など、多岐にわたる組織型を含む異質性の高い疾患群である。

治療法に関しては、外科的切除や放射線療法に加え、薬物療法の進展も著しく、細胞傷害性抗がん剤に加え、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬といった新規治療が急速に臨床応用されるようになってきている。また、これらの治療法は進行症例においてのみならず、術前および術後補助療法としても適応が拡大され、肺癌の治療戦略は日々進化を遂げている。

一方で、これらの治療法の選択は、腫瘍の組織型、遺伝子異常、およびPD-L1発現レベルといった分子生物学的背景に基づいて個別化されているが、すべての症例において十分なエビデンスが確立されているわけではない。特に稀少な組織型に関しては、標準治療が未確立であり、治療選択においては臨床医の経験や施設ごとの判断に依存する部分が多く残されているのが現状である。

【研究期間】

2025年6月20日 ～ 2030年3月31日

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は虎の門病院において研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【診療情報を虎の門病院外へ提供する場合】

本研究においては虎の門病院外へは提供しません。

【利用する診療情報】

診療情報：検査データ、診療記録、画像所見、病理所見、コンパニオン診断およびゲノムプロファイル検査の結果など。

【研究代表者】

虎の門病院・呼吸器センター内科・三ツ村隆弘

【虎の門病院における研究責任者・研究機関の長】

研究責任者：呼吸器センター内科 ・ 三ツ村隆弘

研究機関の長：院長 門脇 孝

【利用する者の範囲】

共同研究機関はありません。

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族等の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身やご家族等の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2030年2月28日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 呼吸器センター内科 ・ 三ツ村隆弘
電話 03-3588-1111(代表)